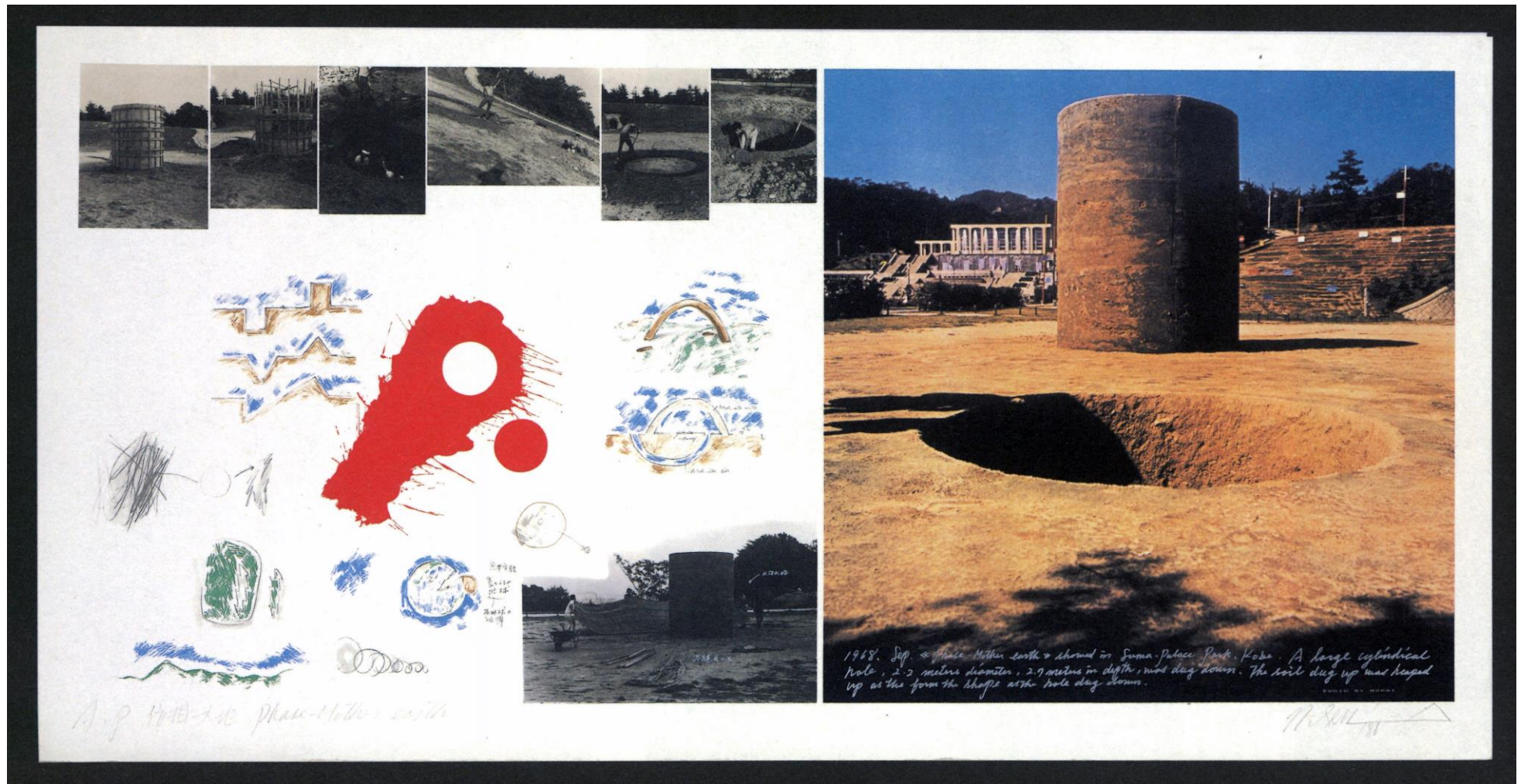


# 府中市美術館アートスタジオ☆WEB

## 関根伸夫《位相-大地 1》—府中市美術館コレクションから(ろう通訳付)

講師 武居利史(学芸員) ろう通訳 小野寺敏雄



# 作品鑑賞のポイント（動画の流れ）

1	2	3
<p style="text-align: center;"><b>全体をながめる</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>部分をよくみる</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>全体をあじわう</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 府中市美術館へようこそ。ここは常設展示室です。近世から現代にいたる日本の絵画を中心に展示されています。</li> <li>● 中でも今回は、現代美術を理解する上で重要な、関根伸夫の作品についてご紹介したいと思います。</li> <li>● この関根伸夫《位相-大地 1》は、1986年に制作されたシルクスクリーンによる版画作品です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 右側には、1968年に第1回神戸須磨離宮公園現代彫刻展で発表した作品《位相-大地》の写真があります。</li> <li>● 左側には、その制作の様子を写した写真や作品のアイデアを記したドローイングが描かれています。</li> <li>● この作品《位相-大地》について、次のような問いをもって、細部までよく見てみましょう。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①どのような作品か(What)</li> <li>②どのように作られたか(How)</li> <li>③どうして作られたのか(Why)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● もう一度、《位相-大地》の全体をよく見てみましょう。</li> <li>● 作品はどこにありますか。初めてこの写真を見る人は、円柱と穴が作品だと思うでしょう。しかし、それだけではないのです。円柱が空に向かってうがたれた穴で、穴が地下に向かって突き出した空の突起なのかもしれません。私たちは、地球を逆さまに眺めることが求められます。</li> <li>● 作者はこの頃、空間の位相的性質を研究する位相幾何学(トポロジー)に関心を持っていました。その理論を応用し、美術のあり方を転換させる「思考実験」をしていたのです。</li> </ul>

## キーワード:もの派

1970年代前後の日本で、芸術表現の舞台に未加工の自然的な物質・物体を、素材としてでなく主役として登場させ、モノの在りようやものの働きから直かに何らかの芸術言語を引き出そうと試みた一群の作家たちを指す。(峯村敏明「『モノ派』とは何であったか」1986年)

## 作品データ

関根伸夫《位相-大地 1》1986年

SEKINE Nobuo, *Phase-Mother Earth 1*, 1986

シルクスクリーン(19版19色)、アルシユ紙

100×200cm(イメージサイズ 87×190cm)

エディション 25、A.P.25 摺:岡部徳三 版元:双ギャラリー

府中市美術館蔵

## 作家略歴

1942年(昭和17) 埼玉県大宮市(現さいたま市)生まれ。

1962年(昭和41) 多摩美術大学油画科に入る。在学中、斎藤義重に師事。

1968年(昭和43) 多摩美術大学大学院美術研究科修了。「トリックス・アンド・ヴィジョン 盗まれた眼」(東京画廊)出品。第8回現代日本美術展でコンクール賞。第1回神戸須磨離宮公園現代彫刻展に《位相—大地》を出品し、朝日新聞社賞。第5回長岡現代美術館賞展で大賞。

1969年(昭和44) 東京画廊の初個展に《位相—油土》発表。第1回現代国際彫刻展(箱根)で、コンクール賞。第6回パリ青年ビエンナーレ展、「現代美術の動向展」(京都国立近代美術館)に出品。

1970年(昭和45) 第35回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館代表として《空相》発表。2年間、ヨーロッパ滞在。

1973年(昭和48) 環境美術研究所設立。第5回現代日本彫刻展に出品。

1978年(昭和53) ルイジアナ美術館(デンマーク)など欧州3か国個展巡回。

1982年(昭和57) 現代版画センター企画「版画と立体による関根伸夫全国展」。

1995年(平成7) 「1970年—物質と知覚—もの派と根源を問う作家たち」(岐阜県美術館ほか)出品。

2002年(平成14) 釜山ビエンナーレ彫刻プロジェクト(韓国)出品。

2003年(平成15) 「〈環境美術〉なるもの—関根伸夫展—」(川越市立美術館)。

2005年(平成17) 「もの派—再考」(国立国際美術館)出品。

2012年(平成24) 「太陽へのレクイエム:もの派の美術」(Blum & Poe、米国ロサンゼルス)参加。

2019年(令和元) 「Decode/出来事と記録—ポスト工業化社会の美術」(埼玉県立近代美術館)。米国カリフォルニア州トーランス市の病院で没。76歳。

## 掲載文献

塚本豊子編「位相—大地・関根伸夫」パンフレット、1986年11月、双ギャラリー。

千葉市美術館(水沼啓和)・北九州市立美術館(小松健一郎)・静岡県立美術館(川谷承子)・望月麻美子編「1968年—激動の時代の芸術」展図録、2018年9月、千葉市美術館・北九州市立美術館・静岡県立美術館。

梅津元・埼玉県立近代美術館・多摩美術大学編「Decode/出来事と記録—ポスト工業化社会の美術」展図録、2020年2月、多摩美術大学。